

TOPICS
4

トピックス…④

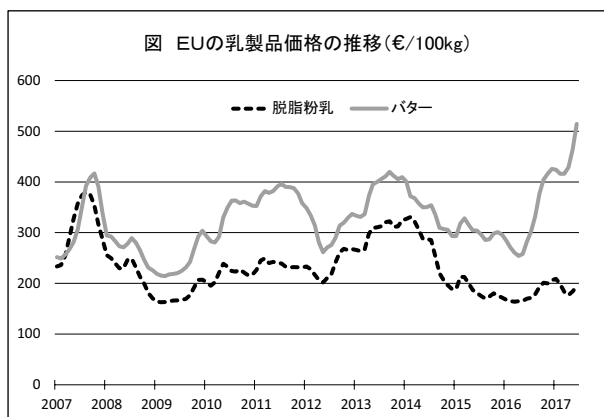
EUが乳製品の短期的需給見
通しを公表

平成29年7月6日、安倍総理大臣とEUのユンカー欧州委員会委員長が首脳協議を行い、日EU・EPAは大枠合意に至ったが、欧州委員会は同月12日、農産物の短期的需給見通しを公表した。乳製品市場に見られる現在の特徴は、バターとチーズの価格上昇、脱脂粉乳の輸出拡大である。2017年後半の生乳生産量は、天候と牧草の状況に大きく影響されるものの、昨年を上回ることが見込まれている。

1. バター高騰と脱脂粉乳輸出の好調に支えられる生乳価格

EUの生乳価格は、本年当初から100kg当たり33ユーロ前後で推移している。生乳価格が好調な背景には、域内での生乳出荷量の減少、バターとチーズの大きな域内需要、さらに南米とニュージーランドでの生乳生産量の減少に伴う、EU産乳製品の強い輸出需要などがある。

EU域内でのバターと脱脂粉乳の価格格差は、かつてないほど大きくなっている。世界的な需給ひっ迫状況の下で、EUのバター価格は6月中旬、100kg当たり500ユーロという歴史的な高水準を上回った。一方、脱脂粉乳の価格は、公的在庫が多いことから低水準に押し下げられているが、輸出需要の増加と供給量の減少によって、わずかであるが回復傾向がみられる（図参照）。



資料：EU Agriculture and Rural Development

今後数か月間にわたり、いくつかの要因が生乳の価格動向に影響を及ぼすことが考えられる。その一つは、世界的な供給量の動向である。ニュージーランドでは、天候不順や極端な価格低下により生乳生産が低迷し、2年連続して出荷量が減少したが、生乳価格が大幅に上昇すれば、生産がピークを迎える9月～1月に出荷量の回復が見込まれる。また、米国の生乳供給量は、前年より約2%増加することが期待されている。

EUの生乳出荷量は、本年当初は減少傾向で推移したが、後半は前年を上回ることが期待されている。脱脂粉乳の大量在庫があるものの、域内外、とくにアジアの需要が旺盛なため、国際市場価格の回復が予想される。

2. 生乳の用途別仕向け量の変化

現在、高水準の価格と旺盛な需要に恵まれたEUチーズ市場は、乳業者に大きな利益をもたらしている。このため、2017年のチーズ生産量は前年を2%以上も上回ると予想されている。このようなチーズの増産は、ピザ用モツァレラチーズの消費に牽引されている。また、ハンバーガーとサンドウィッチでのチーズ使用量も増加している。2017年におけるEUの1人当たりチーズ消費量は1%以上増加し、18kgになると見込まれている。

世界、とくにアジアにおけるチーズの消費量も着実に増加している。ニュージーランドの供給量が減少する一方で、EUと米国がチーズ市場で利益を得ている。2017年の第1四半期におけるチーズ輸出量は、EUが7%、米国が15%増加している。EUから日本への輸出量は40%、韓国へは23%増加している。

世界的なバター価格の高騰は、需給の不均衡に起因すると言われている。バターと乳脂肪の需要は世界的に増加している。EUの小売市場や業務用市場では、マーガリンやスプレッドからバターへの切り替えがみられる。EU以外でも、主に製菓・製パン業界でバターとクリーム消費が増加している。しかし、EUでは、バターと脱脂粉乳よりも利益率の大きいチーズやホエイへの生乳仕向け量が増えるため、バターの生産量は前年に比べて3%減少、輸出量は20%減少すると見込まれている。

3. 搾乳牛の高い更新率の影響

2016年12月現在、EUの生乳生産量を左右する搾乳牛飼養頭数は前年比0.4%減で引き続き減少傾向にある。2016年の搾乳牛と畜頭数は8%増加したが、搾乳牛飼養頭数の減少がわずかに抑制されたのは、高い比率で生産性の高い若齢雌牛に更新したからである。

この搾乳牛の更新によって、2017年の1頭当たり乳量は前年比2%の増加が見込まれているが、牧草の品質や収穫量、濃厚飼料の給与状況（酪農家の購入資金量）の影響を受ける可能性がある。さらにEU15（西欧諸国）では、低栄養飼料の給与によって、乳脂肪分率が0.7ポイント低下すると予想されている。